本会の第９代会長であった鍵谷隆一先生を紹介いたします。

　先生は八雲町でお生まれになり１歳まもなく岩見沢に来られ、日本大学歯学部に進まれるまで岩見沢で過ごされました。大学院終了後に岩見沢に戻り鍵谷歯科医院の第２代目院長になりました。入学時のエピソードとして当時は大学紛争の最盛期、入学は５月だったそうで、病院の窓には鉄格子がはりめぐらされていたのには驚いたとのこと、剣道部と自動車部に所属、特に自動車部ではラリーのナビゲーターとしてレースに出場されていたとのこと。また、当時はスキーブームでもあり本州の有名なスキーリゾート地によく足を運んでました。

　奥様との出会いは、学生時代はクラスも違い話す機会はなかったが、卒業後のバイト先での再会がきっかけであったとのこと。先生は中国語が堪能です。これは奥様の水墨画の中国人の先生と懇意になったのがきっかけで、ＮＨＫの中国語講座などで独学で学ばれたとのことです。自分は異文化が好きだ、その血を継いだのか、娘はハルピンで日本語の教師をしている。と嬉しそうに話されていました。

　もうすぐ７０歳を迎えるあたり歯科界に思うことはと尋ねたところ、歯科医師会は地域医療の要であり、特に高齢化社会を迎えた今、訪問歯科の重要性は高まるが、現状では実施している先生（特に若い世代）が少ない。歯科医師会活動の意義を含め、若い世代に周知していきたい。その一つの手段として、多くの情報がある中、何が歯科医師に重要かを見極め、それを配信する、「歯科医師会」のありがたさを知らしめることもありかと思ってます。

　最後に4期９年の会長時代の感想を伺ったところ、「若い人を育てられた」、若い人が協力してくれたこと、若い人に存分にやってもらい責任は自分が取る、そんな思いでいたことが一番の思い出とのことであった。

　これとは別に「岩見沢衛生士会」の頑張りようを会員に伝えて欲しい。との要望があった。

先生は昭和５３年入会以来、理事、或いは岩見沢歯科医師会 会長として、各種健診事業や、一般市民の歯科啓発のための講演活動、歯と口の健康づくり推進事業、良い歯のコンクールや８０２０コンクール等の歯科公衆衛生普及事業を継続して行い、平成24年度に南空知のほぼ全域にわたる幼稚園・保育所・小学校におけるフッ化物洗口事業を確立させ、平成25・26年度には在宅訪問診療を広めるための医療連携推進事業検討会を主催、医療・介護・防災・精神福祉など多数の委員会に出席し、より健康で住みよい地域になるよう各方面に提言されてきました。また当会のみならず近隣の歯科医師会をも含めた医療水準の底上げのため、会員向けの各種学術講演を企画、委員会を複数作りまとめてこられました。ということでご推薦申し上げましたところ、北海道社会貢献賞並びに岩見沢市教育振興表彰を今年受賞されました。

また、日本学校歯科医会会長表彰ですが、長年にわたり学校歯科保健活動の普及と向上に顕著な功績のあった方が「会長表彰」として表彰されます。先ほど申し上げた功績はもちろん、岩見沢市東光中学校の学校歯科医を昭和57年から33年間務められたことと、道歯からの推薦がありまして、本年３月２４日に行われました日本学校歯科医会総会の席上で表彰されました。